

環境にやさしい資材の取扱い拡大でコストを削減

【生分解性マルチの取り組み】

＜生分解性マルチ導入のねらい＞

- 収穫後に土中にすき込むため、面倒なマルチ除去の手間が軽減され、**労働時間が短縮される**ことにより、**農地の規模拡大**につながる。
- 通常のマルチで発生する**廃棄物処理の手間・費用を省く**ことができる。

＜ポリマルチと生分解性マルチのコスト比較（例：とうもろこし）＞

（単位：円/10a）

	使用本数	資材費	回収作業費等	回収等作業時間	処分費	合計
ポリ	3.5本	6,370	14,400	16h	1,465	22,235
生分解		22,225	—	—	—	22,225

※使用規格は95cm×200m/本、処理費は50円/kgで試算（R1本会試算）

＜本会取扱実績・計画＞

R2年度	R3年度	R6年度計画
61,500本	70,000本	100,000本

＜今後の取り組み＞

- 生分解性マルチの導入により、トータルコストの低減を図ることは可能であるものの、生分解性マルチ自体の価格が高いため、産地にて導入に至らないケースが多い。
- 事例集から推進ターゲットの選定と実践。

【役割分担】

	JA	県 域	全 国 域
役割分担	○推進ターゲットへの推進 ○部会行事での推進	○推進ターゲットのJAとの共有 ○JAとの同行推進	○事例集から推進ターゲットの選定 ○県域との推進ターゲットの共有



天然物系 農業用生分解性マルチフィルム

さね太郎Z

天然物系農業用生分解性
マルチフィルム
「環境にやさしい省力化資材」



- 収穫後は鋤き込むので、剥き取り不要。作業省力化。
- 薄くて丈夫、農ポリ・マルチと同等の強度、機械作業可能。
- 土中の微生物によって水と炭酸ガスに分解、自然にやさしい。

栽培事例

スイートコーン、枝豆（茶豆）、カボチャ、大根、里芋、冬レタス、パイナップル、オクラ、その他